

運転士が虚偽の報告

8月23日、JR指宿枕崎線において、ホームで停車中だった列車のドアが開いたまま約2メートル動くトラブルがあった。当初、業務中の運転士の肘があたり、誤ってブレーキが緩んだとされていたが、はそれが運転士の虚偽の報告であったと公表した。

23日午前6時半ごろ、鹿児島中央駅を出発した列車が坂之上駅に停車中、ドアが開いた状態で約2メートル前進するトラブルがあった。約10人の乗客にケガはなかった。

運転士に聞き取りを行ったところ、運転士は業務中に誤って肘がブレーキハンドルにあたりブレーキが緩んだと話していたという。しかし、その後の車両データなどの調査で、運転士はドアを閉め忘れたままブレーキを緩め、列車を走らせようとしていたことがわかった。運転士の60代の男性は、虚偽の報告をしたことを認めていて、「とっさに言ってしまった」と話しているという。

正しい報告の徹底

一つの虚偽が、また違う虚偽を生み、大きな事象に膨れ上がることを認識してください

業務においては、安全最優先でお願いいたします

以上